

未来都、生産性向上に取り組み

配車システム「CABmee」(JVCケンウッド)など全車に導入

未来都(笹井美智子社長、守口市)では、21年2月中旬から3月にかけて全営業所576両全車に導入したJVCケンウッド(江口祥一郎社長、神奈川県横浜市)の配車システム「CABmee」(キャブミー)が活躍している。利用客の存在をあたかも漁船が魚群探知機で探すように見付けるサポートをする「待機機能」が大きな魅力だ。1月27日、同社の小山泰生顧問と未来都ハイタク事業協組の黒江忠隆・管理本部システムグループ長、JVCケンウッドのテレマティクスサービス事業部サービス運用部MSPセンターの吉田勲氏が取材に応じた。(高原)



このシステムに興味を持ったのは今年の正月明け、大阪のウエスティンホテル前でタクシーを待っていたことだ。近くの映画館で映画を見たあと、普通なら来たように地下道を通って大阪駅方面に歩いて帰るところが、妻が地域の役をやっている関係で中央区内の別のホテルで行われる新年会に行く必要があり、タクシーで急行することになった。ホテル前ならタクシーがいるだろうと思ったが、新型コロナウイルスの再拡大前で感染者数が落ち着いている時期ではあったが、まだまだホテルが活気を取り戻しているわけでもなく、目の前で個人タクシーが1台出て行った後に、タクシーは1台も並んでいなかった。土地勘があるので表通りまで出て流しのタクシーを探そうとした瞬間、1台の未来都のタクシーが入ってきた。乗務員に「上手く入ってきてくれて助かりましたよ」と言うと、車載機をポンポンと触って、「こうやって見ると、このホテル前に待機しているのが0台だったので入ってみたんです」と教えてくれた。

「CABmee」とは?

同システムは無線センターのオペレーターからの配車、アプリを使った配車、電話からの配車・CTI、車載のシステムのすべてをクラウドで行っている。配車アプリは大阪が初導入したS・RIDEのみがダイレクトで入り、未来都が以前から導入していたウーバーとGOについては、別端末で対応している。

CABmeeの機能で特筆すべきは、「待機機能」

だ。待機場所、専用乗り場には入構できる台数制限等もあるが、それらの情報をオペレーター端末で入力、設定し、いつでも変更できる。一方、車載の端末では、待機場所が全て見えて、待機場所の枠内に入ることによってフラッシングし、ボタンを押すと待機に入る。台数を確認したい場合は、右側のボタンを押すと、例えば「今2台入っています」というような情報がクラウドシステムから入ってくる。また地図上で「この辺りに待機場所がある」ということが分かるが、「周辺の車を見る」というボタンを押すと俯瞰的に待機してそうな車が何台いるということも分かるようになっている。

記者が出会ったタクシーは、まさにこのCABmeeの「待機機能」を活用してホテル前の待機場所に入ってきたわけだ。当然、このシステムを導入しているタクシーの状況しか分からないので、「0台」といっても他のタクシーも入れる待機場所なら、他のタクシーが待っている可能性もあるわけだが、自社のタクシーの状況は確認できる。未来都の専用乗り場ならさらにその効果が発揮できるわけだ。

また「配車代行」も大きな特徴だ。CABmeeを搭載した別の会社がコールセンターを閉鎖した場合、同じく導入している会社で配車を代行することができるというもの。この場合、JVCケンウッドが、コールセンターの代行をするのではなく、タクシー事業者が主体となってタクシー事業者間の協業となる。周辺地域を中心に人材不足から無線室の維持が厳しくなっているが、そ



の問題をCABmeeなら解決してくれそうだ。

さらにこのシステムでは自動配車において、直線距離で見ているのではなく、ルートを見て到着時間を予測し実際に早く来る車を配車するので、トラブルが少ない。例えば川向うにお客がいる場合、直線距離で最も近い川を挟んだこちら側のタクシーを配車すると、実際には橋のある所まで大きく迂回して向かいに行くと到着予定時間が違ったりする。しかしCABmeeなら、実際に辿るルートで最も近いタクシーを配車するので時間の読みがより正確になる。こういうことができるのは今はこのシステムだけだという。

個社にもマルチにも対応可能に

また、CABmeeと連携しているS・RIDEは、実証実験中の「相乗りサービス」にも対応している。乗客用の専用配車アプリを、個社専用のものもマルチ対応のものも開発中。ホテルや飲食店等の施設に設置してボタン一つでタクシーを配車できる「タッチベル」はすでに商品化されている。これはお年寄りの手持ちタクシー配車ボタンとして活用できるなど幅広い使い方が期待できる。何かあっても必ず予備機の準備もあり、整備と常にやり取りでき、24時間365日のサポート体制も充実している。現在、全国で約1600台に導入されており、年内に200台追加される予定という。

未来都がこのCABmeeを選定し、車載機に縦型の専用端末を導入した最大のポイントは、バッテリーレスで熱膨張の心配がなく、故障も一切なく、4年の耐久性を実証済みで液晶も車載専用なので色褪せしない「ハード面の強さ」だ。

防犯衛生シールドと低濃度オゾン発生器も

未来都では、ドライブレコーダーとこのほど大阪府のタクシー感染対策補助金活用で導入した「低濃度オゾン発生器」もJVCケンウッドで揃えた。なお、補助金活用では三和交通(吉川永一社長、神奈川県横浜市)製の

「防犯衛生シールド」も全車で導入している。

防犯衛生シールドは、車内防犯対策の強化と新型コロナウイルス感染症抑止の2つに特化した運転席と助手席、後部座席の仕切りパネルで、ポリカーボネート製で耐衝撃性と透明度が高い。真夏の車内温度は約55℃になるが、このパネルの耐熱性も約130℃で安心。クラウンスーパーデラックス専用と、ジャパントクシー「初期型」専用、同「現行型」専用がある。一方、JVCケンウッドの「低濃度オゾン発生器CAX-DS01」(ソーラータイプ)は、オゾンと異音のW効果でウイルス・ニオイを元から除菌・消臭する。走行中はシガーソケットから電源を供給することで、車内に漂うウイルスや雑菌、気になる臭いを除菌・消臭するが、ソーラーパネル駆動で駐車中でも除菌・消臭することができる。また多重リング式コロナ放電によって発生する強力なイオン風により、空間に低濃度オゾンとイオンが遠くまで放出されるので、ファンがなく静かで快適。

同社では新型コロナウイルス感染症の問題が出てきた初期の一昨年2月1日からプロスタッフ(愛知県一宮市)が製造販売する「エアコンルーパーズバツと減臭エアコン用」を全車に装備し、タクシー利用客と乗務員の安全・安心を守る中で、当時のマスク不足の状況の中、新たな感染症対策を取っていた。

この製品の有効成分である安定化二酸化塩素(CLO2)は、NASA(アメリカ航空宇宙局)の宇宙食の完全滅菌にも使用されている。成分には抗ウイルス・抗菌・消臭・カビ抑制の4つの効果があり、塩素の約2.6倍の殺菌力を持ち、悪臭の元やウイルス等の雑菌を酸化分解し、激減させる。有害物質がほとんど発生させない安全な殺菌方法となっており安心して利用できる。ただし消耗品なので、今回、低濃度オゾン発生器を導入し、常時万全の感染防止対策が取れる体制を確立した。(了)

